

自己点検・評価 報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
A S Oポップカルチャー専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、A S Oポップカルチャー専門学校の2018年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2019年 3月 31日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 高橋 賢二

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 12 -
	基準 6 教育環境	- 13 -
	基準 7 学生募集	- 15 -
	基準 8 財務	- 16 -
	基準 9 法令遵守	- 17 -
	基準 10 内部質保証	- 18 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 19 -
	基準 12 国際交流	- 20 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

教育理念

専門性を高め、かつ人間性、人格の成長を図る。

教育目標(人材育成像)

1. A S Oポップカルチャー専門学校

「在学中に成長する喜びを知ることにより、卒業後も継続して成長し、ポップカルチャー業界で活躍し続けられる人材」を育成する。

2. 各専攻、コース

(1) ゲーム・CG・アニメ専攻科 ゲーム専攻（4年制）

3DCGプログラミングからネットワークプログラミングまで、ゲームプログラマーに必要な高度なプログラム技術を習得し、業界の最先端で活躍できる人材を育成する。

(2) ゲーム・CG・アニメ科 ゲームコース（3年制）

ゲーム開発を通じてプログラム言語を習得し、ゲーム業界をはじめ、IT業界でも幅広く活躍できる人材を育成する。

(3) ゲーム・CG・アニメ専攻科 CG専攻（4年制）

コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、モデリングやモーション、VFXについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(4) ゲーム・CG・アニメ科 CGコース（3年制）

コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、モデリングやモーションについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(5) マンガ・イラスト・CG科 CGコース（2年制）

コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、キャラクターモデリングについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(6) ゲーム・CG・アニメ専攻科 アニメ専攻（4年制）

アニメーション制作に関わる全般的な技術と共に業界標準となっていく先端的な技術を学び、アニメーションに関連する幅広い分野で活躍出来る人材を育成する。

(7) ゲーム・CG・アニメ科 アニメコース（3年制）

アニメーション制作に関わる全般的な技術を実践的なワークフローを通して学び、業界の即戦力として活躍できる作画力を持ったアニメーターを育成する。

(8) マンガ・イラスト・CG科 イラストコース（2年制）

画力の向上をベースにデザインの専門技術を習得し、実践的なイラスト制作を通じて業界が必要とする応用力、提案力を持ったイラストレーターを育成する。

(9) マンガ・イラスト・CG科 マンガコース（2年制）

漫画制作の実践基礎から空間表現に必要な技術を習得し、漫画賞受賞やプロデビューをして業界で活躍できる人材を育成する。

(10) マンガ専攻科（1年制）

さらに高度な技術や高いステップを目指すために個別指導を中心に学び、即戦力となれる人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 法人の教育理念を基に学校独自の教育理念、教育目標の見直しと周知。
- ② 教育理念に基づいた教育目標ならびにアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーの見直し及び周知。
- ③ 教育環境の整備：学生に対する支援体制を整備し、学生が安心して学校生活を送る環境を設定。
- ④ 教育の質向上に向けた取り組み：学習環境・施設・設備の整備。

2. 取組み状況

- ① 法人の教育理念に基づき、学校としての教育理念・教育目標を見直し、全教職員への周知を図った。
- ② これまでは法人の理念を軸に教育活動を実施してきたが、加えて学校独自の教育理念、教育目標を明確に定めることが課題であった。教職員全員周知の為にも、教育理念に基づく学校の教育理念、教育目標、3つのポリシー(アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー)を見直し、各専攻・コースで育成する人材像を明確にした上で、カリキュラムの再編成を行った。
- ③ 近年、学力・メンタルの両面において様々な状況を抱える学生が増えておりキャンパス内全体で運営しているキャンパスライフサポートセンターとは別に、学内に相談窓口を設置し、校長代行、事務部長、事務長補佐にて学修・生活・進路など、さまざまな相談を受付ける支援体制を整備した。学生への周知については携帯できる案内カードを配布した。
- ④ 業界のニーズに応えるべく大幅な設備投資を行い、教育環境の充実を図った。これにより即戦力として活躍できる学生を育成するための体制が整備された。また、導入にあたっては教員による会議にて内容を決定した

3. 総括（成果と課題）

- ① 教育理念、教育方針、3つのポリシーについて教職員に周知を行った。
- ② 次年度より新たに明文化した教育目標等を学生に配布する学生便覧に掲載することで教職員ならびに学生への周知を図っていく。今後は2年次以降の学生に浸透させるための手段についても検討していく必要がある。
- ③ 支援体制を整備したことにより、学生にとって相談のしやすい環境の構築という面で一定の効果があつたと捉えており、今後も在校生に向けて周知の徹底を図っていく。初期段階での面談を増やすことで多欠席や休学・退学の抑制に繋げていけるよう取り組みを継続していく。
- ④ 職業実践専門課程の委員会や業界関係者の助言を仰ぎながら、今後も必要に応じた設備投資を行っていく。設備への投資だけでなく、整備・保守についても管理体制を明確にし、適正な整備を行うことにより一層の充実を図っていく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

中項目 1 - 1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

学校の教育理念等については明文化し、ホームページにて社会に公表している。本校の理念や目的は法人の理念を基に展開しており、当該年度の事業計画書や麻生塾ルールブックに掲載し、全教職員で共有している。新入生に対しては、学生便覧に掲載し共有、指導するとともに、グローバルシティズンベーシック教育（GCB 教育）を通して麻生塾の卒業生としてふさわしい態度や考え方を育むようにしている。

【課題】

新たに明文化した学校の教育理等を学生へ配布する学生便覧に掲載したが、学生便覧を配布しない在校生への周知が不十分である。

【今後の取組み】

学生便覧を配布しない学生については、「教育理念」の部分を抜粋したものを配布し、担任通して学生へ周知する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 - 1 - 1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1 - 1 - 2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1 - 1 - 3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

運営方針はルールブックに記載し、規定通り運営している。事業計画についても校長代行を中心に策定し、計画に沿って適切に運営されている。教職員の採用、人事給与に関する取扱いは、各規程等を整備し、学校法人として取りまとめて、適正に運用している。事務職員の意欲・資質向上については、学内の研修を中心に参加している。

【課題】

事務職員の資質向上について学外での研修整備が整っていない。

【今後の取組み】

事務職員に対して年間研修計画を策定し、学外での研修計画を整備する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

ディプロマポリシーならびにカリキュラムポリシーについては明文化し、全教職員にて共有している。また、学生に対しては学生便覧にて周知しており、社会に対してはホームページにて公表している。カリキュラムは教育課程編成委員会で検討し、教務会議にて決定の上、編成している。見直しの際には、全教員が参加し、検討会議を行なうことにしている。また、カリキュラムについてはホームページにて社会に公表している。

【課題】

教育目標（育成人材像）に基づくディプロマポリシーを明示してはいるが周知・徹底が不十分である。定期的な検証と併せ、今後の課題として取り組んでいく。

【今後の取組み】

カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに沿って適切な教育が行われているか、非常勤講師会にて周知徹底を図るとともに、教務会議にて定期的な検証を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教員にてカリキュラム会議を定期的実施しており、それを基に教育課程編成委員会で検討の上、カリキュラムを編成している。カリキュラム完成後は科目ごとにシラバス、コマシラバスの作成を行い、教育活動のPDCAサイクルを回し、適切なものとなっているかを検証している。実践的な職業教育については、企業担当者による業界セミナーや企業説明会を開催し、業界理解を深めている。

【課題】

リメディアル教育の環境が用意されてはいるが、実施状況は伸びておらず、効果的に利用されているとは言えない状況にある。

【今後の取組み】

教育課程の編成・実施方針に基づき、今後も定期的なカリキュラムの見直しを行い、教育内容の充実を図る。リメディアル教育については運用方法を再度検討し、効果的に活用していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	A
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	A
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員(すべての教員、職員、学生)に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル(導入前教育、補習)教育を行っているか。	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)が体系的に位置づけられ、実施しているか。	A
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	A

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業アンケートの結果に基づき、必要に応じて教員に対して指導を行い、改善を図っている。改善の評価は、ミニアンケートを活用して早期に判断ができるようにしている。検定取得については、該当授業について、定期的に担当者間で会議を行ない、対策及び改善を図る取り組みを行っている。

【課題】

新任教員に対して、授業アンケートやミニアンケートの活用とあわせて、計画的な研修を行う必要がある。

【今後の取り組み】

主任、リーダー、サブリーダーが中心となり、必要に応じて授業観察や研修等の計画を立案し、改善活動を行う。また、アンケート実施後のフィードバックの記録を作成し、教務会議の資料として活用する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

全ての科目で正試験及び正試験に準ずる方法で適切に評価している。また、評価規定については学生便覧等にて学生に周知している。

【課題】

現状、成績評価基準について特に問題はないが、成績評価基準が適切であるか継続的に確認していく必要がある。

【今後の取組み】

学生へ周知するだけでなく、学生自身が認定基準を常に意識しながら授業・課題に取り組めるような環境を整備する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	A

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

組織の整備はできているが、非常勤を含めた教員の質の向上を図っていく。学科・系単位でリーダーを配置し、適切に運営している。各学科共に必要な資源は確保しているが、担当科目数の見直しなど、より充実した運営をおこなっていく。

【課題】

教員の資質向上を図るための研修への参加が、一部の教員に留まっている。

【今後の取組み】

年間研修計画を策定し、教員に対して積極的な研修参加を促す。実務に関する研修については企業との連携を推進し、教員の能力向上を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

教育活動の成果としての成績、検定取得、退学者等の目標値については事業計画の中で全教職員に周知している。進捗状況については毎月、クラス運営報告書として各クラスの状況を報告し、その状況を定期的な学科会議等で振り返っている。月例会議にて学校全体で状況を共有すると共に進捗を確認し、必要に応じて修正を行っている。卒業生の社会的評価については、就職担当者による企業ヒアリング、在籍調査を定期的実施している。

【課題】

入学してくる学生の多様性への対応が課題となっており、退学・留年を防止し卒業率・進級率の向上を図る必要がある。また、就職先企業へのヒアリングや在籍調査は実施しているが、現状それにとどまっている

【今後の取組み】

各種コンテスト等に積極的に参加することで、客観的視点から教育達成度を評価し、教育活動の改善に繋げていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	-
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	-

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

教務をサポートするキャリア支援本部、経営推進本部という組織があり、教育推進グループ、広報グループ、学生支援グループ、国際交流センターが入学前から卒業後までを横断的に支援している。学校内に就職専任スタッフを配置しており、また、学生相談専門部門と連携し学生のストレスケアへの対応を行っている。学校生活に関する指導は担任のガイダンス及び主任・校長代行の面談にて連携して対応している。

【課題】

留学生の入学増加に対応するべく、環境を整備する必要がある。

【今後の取組み】

留学生の、生活支援や就職指導等について、国際交流センターをはじめとする関係部署と連携して適切な支援を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	A
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	A
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	—
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

学校として基本となる施設、設備については事業戦略グループと連携し、年度毎に教室の見直し及び設備の補充をしており、かつ良好に管理ができています。教育環境の整備については、規定やルールを定めている。総合的図書室の設置運用とあわせて、それぞれの専門分野についての資料を設置し、教職員、学生の利用ができる状態になっている。

【課題】

図書室について専門分野の蔵書が少なく、有効に活用できていない。

【今後の取組み】

教育設備については引き続き事業戦略グループと連携し、必要に応じて適宜見直しをしていく。
総合図書室については蔵書の増加や利用促進の策を講じ、有効に活用していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

企業との連携によりインターンシップを実施している。インターンシップを取り入れにくい業界については、企業を招いての業界セミナーや企業説明会を通じて社会で必要なスキルを理解させている。学内外の安全対策に関しては防災、防犯設備の点検や避難経路を掲示し教員の周知徹底を図ってはいるが、避難訓練が実施できていない。また、学生の登下校及び学校生活については注意を促しており、安全確保にも十分に配慮している。

【課題】

安全対策について避難訓練の実施ができていない。

【今後の取組み】

年間計画策定時に避難訓練の実施日を決め、確実に実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	B

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシーは全教職員に周知し、募集要項及び学校ホームページにて社会に公表している。募集活動においては学科毎の育成人材像、目指す国家資格・就職先、修得できる知識及び技術等を伝えている。募集要項及び学校ホームページに入学者の選抜方法を明示し、公正かつ適切に実施している。学生納付金についても同様に明示しており、経営推進部門と協議を行い妥当性のある金額に設定している。

【課題】

業界のニーズに応え、定員数や選考基準などの見直しの必要があるかを検討していく必要がある。

【今後の取組み】

入学者選考は入試実施マニュアルに基づき公正かつ適切に実施する。定員数についてもカリキュラム会議・学科検討会議の中で継続的に検証していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	A
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	A
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

定員充足率、入学者比率は、改善傾向で、収入と支出のバランス、また、貸借対照表からみて、財務基盤は安定しているといえる。年度予算に従って管理運営が厳格に行なわれており、また部門長にて月次での予算管理が行なわれている。監査についても定期的の実施されている。財務情報はHPにて適切に公開している。

【課題】

特に問題無し。今後も適切な財務管理を進めていく。

【今後の取組み】

年度予算及び中期計画を策定し、適切な管理・運用をしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

職業実践専門課程及び文部科学省専門課程認定校の基準を遵守している。教育環境については教育支援グループ・学事グループと協議し、教室設備の見直し、教員配置の確認を行っている。

【課題】

特に問題は無いが、学生数増加に伴い、校舎・教室の調整等を続けていく必要がある。

【今後の取組み】

法令、専修学校設置基準に変更が生じた際は、基準に沿って整備を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	A
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

自己点検については担当教職員を中心に評価を行ない、問題解決のために共有を行っている。その結果に基づいて、改善計画を作成・実施した。ホームページでの公開及び学校関係者評価委員での説明を行っている。学校関係者評価委員会の結果は麻生塾ホームページにて発信している。

【課題】

学校自己点検・評価の課題については、改善されているが不十分なものもある。

【今後の取組み】

学校自己点検について、自己点検評価委員を中心に教職員全体で改善の意識を持ち、課題の解決を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	—
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	—

=====
基準 1 1 社会貢献・地域貢献
=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

毎年 3 月に実施をしている「お仕事スタジアム」にて、地域の高校生に対し将来の職業観の醸成を高める活動を行っており、社会貢献活動の一環として定着している。
ボランティア活動についても地域のイベントに毎年ボランティアとして参加している。

【課題】

教育機関として地域住民への貢献活動を推進していく必要がある。

【今後の取組み】

地域に根差した学校として、教育資源を活かした地域住民参加の公開講座等を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	A
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

事務職員が必要な研修を受け、また国際交流センターと連携し留学生の受け入れについて適正な手続きが行われる体制を整備している。留学生については担任を中心として、複数の教職員で関わるようしており生活面も含めて支援している。留学支援についても国際交流センターと連携し、希望者に対して支援を行っている。

【課題】

留学生の増加が見込まれる中、留学生に対するより一層の就職支援の充実が必要となる。

【今後の取組み】

留学生の就職支援について、各校の就職担当者や国際交流センターといった関係部署と連携し、就職先の開拓及び即戦力となるための支援を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	A
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	A